

人文科学研究所研究叢書

56.『第二次世界大戦後のイギリス小説 ベケットからウィンターソンまで』

2013年3月5日発行

中央大学人文科学研究所 編 中央大学出版部発行

本体価格4,200円（税別）

ISBN 978-4-8057-5341-5

まえがき	
『モロイ』に潜むホロコーストの足音 —サミュエル・ベケットの戦争の記憶—	鈴木 邦成
ウィリアム・ゴールディング『尖塔』におけるヴィジョンの変容	丹治 竜郎
バーバラ・ピムと「古き良き」イギリス	新井 潤美
アイリス・マードックの小説における同性愛者	大道 千穂
ジョン・ファウルズの軌跡	深澤 俊
初期ニューレフトの労働者階級文化を超えて —アラン・シリト—『土曜の夜と日曜の朝』—	糸多 郁子
フィリップ・ラーキンの小説『ジル』と『冬の女』	森松 健介
ローランドが手にしたもの —A・S・バイアット『抱擁』の塔と地下室—	船水 直子
『アウト・オブ・ジス・ワールド』 —ビーチ家の人々—	野呂 正
『ダン・リーノとライムハウスのゴーレム』における反復について	永松 京子
カズオ・イングロの『遠い山なみの光』小論 —曖昧さの考察—	安藤 和弘
傷ついた物語の語り手によるメタ自伝 —ジャネット・ウィターソンの『オレンジだけが果物じゃない』と 『普通になれるなら幸せにならなくていいじゃない?』—	川崎 明子
あとがき	
索引	